

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年(国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年 国語131人 算数131人 理科131人

第5学年 国語131人 算数131人 理科131人

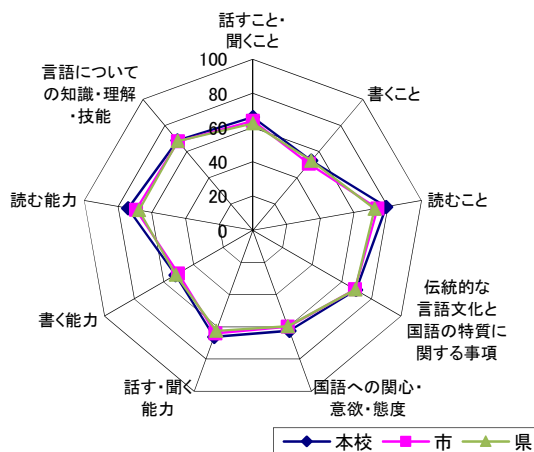
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	66.2	64.0	62.5
	書くこと	53.1	50.9	53.1
	読むこと	79.1	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.6	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	62.4	59.9	59.7
	話す・聞く能力	66.2	64.0	62.5
	書く能力	52.2	50.4	52.0
	読む能力	74.0	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	68.6	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

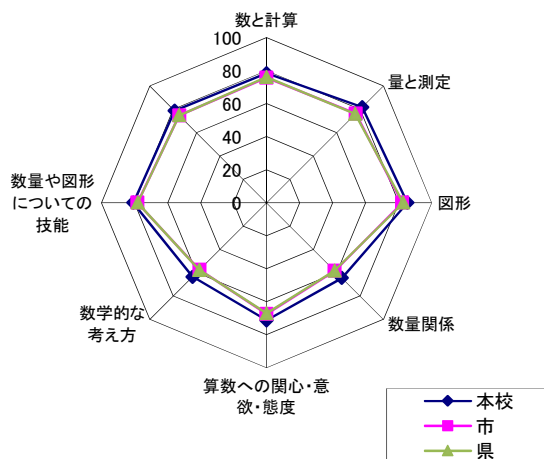
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市を2.2%、県を3.7%上回っている。</p> <p>○大事な言葉を落とさずに聞きとることができる。 ●聞き取った内容を受けて、自分の考えを表現することに課題が見られる。</p>	<p>・表現力の育成に関しては、学校課題で取り上げて重点的に指導している。自分の考えを持って話し合う活動を今後も継続し、朝のスピーチや学級活動を通して、表現力を育成していく。</p> <p>・児童が話し合う際に、教師が机間支援を行い、ペア学習等で出た意見を確認したり、整理したりして、内容の把握ができるように指導していく。</p> <p>・他教科でも、学級活動同様の話し合いを行う。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市を2.2%上回り、県とは同等である。</p> <p>●他観点に比べ、正答率が52.2%と低い。 ●文章中に漢字を使用できない児童が目立つ。 ●文末表現「～だから」の「から」を付けていなかったり、句点がなかったりして、不正解となった児童が見られる。 ●問題に取り掛かれず無答となってしまった児童がいる。</p>	<p>・自分の言葉で記述する際に、「何文字以内」や「○○という文字を入れて」といった条件を加えることで記述力を育てる。</p> <p>・文と文のつながりや、文末表現に気をつけて書くことなど、基本的な文章の書き方の指導を繰り返す。</p> <p>・様々な機会に漢字を使って文章を書く習慣を身に付けさせる。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市を5.2%、県を6.9%上回っている。</p> <p>○場面の様子や人物の様子を読み取る問題では、正答率が県の平均より5%以上高く非常によくなる。</p> <p>●段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取る問題では、県の平均正答率を3.3%上回っているものの、校内正答率が52.7%と低めである。</p>	<p>・重要な箇所に印をつけながら読む指導を徹底していく。</p> <p>・朝の読書活動では、進んで本を準備し、読書する習慣が身に付いているので、今後も継続させていく。</p> <p>・人物描写や情景描写が登場人物の心情を読み取る鍵となることに気付かせ、多様な解釈が考えられる部分を課題として取り上げ、考える授業を展開することで、さらに読解力を高めていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、市を0.7%、県を0.5%上回っている。</p> <p>○正しく漢字を読んだり、書いたりすることがよくなる。</p> <p>●日常使われている簡単な単語をローマ字で書くことが定着していない。 ●国語辞典の使い方に関する理解が低い。</p>	<p>・文章を書く作業や言葉の意味を調べる学習を通して、国語辞典の使い方を復習し、正しく理解させる。日頃から、辞典を引く機会を増やし、習慣付けていく。</p> <p>・ローマ字の復習を進める。まずは、自分の名前を書くことから始め、拗音や長音の表し方を正しく理解させ、定着を図っていく。</p>

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	78.5	75.8	76.1
	量と測定	81.9	76.5	76.0
	図形	85.2	82.1	82.7
	数量関係	64.4	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	71.2	67.4	67.0
	数学的な考え方	63.4	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	80.8	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	78.8	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

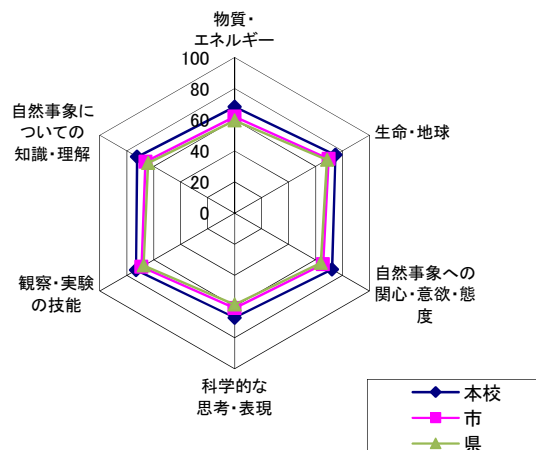
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市を2.7%、県を2.4%上回っている。</p> <p>○余りを切り上げて処理し、その理由を説明する設問では、県の平均正答率を11.1%と大きく上回っている。</p> <p>●かけ算の筆算に出てくる数の意味についての設問では、正答率が28.2%と非常に低い。</p>	<p>・ドリル学習とプリント学習を繰り返し、苦手な単元の復習に力を入れ、習熟の度合いを高めていく。特に、小数のかけ算やわり算は、位取りや小数点の位置に注意して、たしかめ算もさせるようにする。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、市を5.4%、県を5.9%上回っている。</p> <p>○身近な重さの単位についての設問では、県の平均正答率を6.1%上回っている。</p> <p>●地図から読み取った2つの道のりについて、長さの大小の表し方を理解する設問では、県の平均正答率を上回っているものの定規やコンパスの扱い等に課題が見られる。</p>	<p>・道のりを測る方法を反復練習させ、定規やコンパスの使い方の習熟を図る。</p>
図形	<p>平均正答率は、市を3.1%、県を2.5%上回っている。</p> <p>○円の直径についての設問では、県の平均正答率を3.4%上回っている。</p> <p>●球の半径から、球が2個入った箱の辺の長さを求める設問では、県の正答率を上回っているものの円の直径と半径の関係に関する理解に課題が見られる。</p>	<p>・円の直径と半径の関係を考える学習では、実物进行操作する活動や求め方を説明する活動、視聴覚教材の活用などを行うことにより確実に理解できるようにする。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、市を6.0%、県を6.2%上回っている。</p> <p>○□を使った文章問題を表した図の構想をとらえる設問では、県の平均正答率が9.6%上回っている。</p> <p>●棒グラフの目盛りの大きさと最も大きい値に着目して、棒グラフをかくことができない理由を説明する設問では、正答率が18.3%と非常に低い。</p>	<p>・理科や社会科などの他教科の中で、また生活の中で表やグラフを使うようにする。算数で学習したことを生かせるように分かりやすく説明を加えていく。また、子どもたち自身でも、表やグラフが日常的に使えるようにしていく。</p>

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	68.3	61.9	59.4
	生命・地球	74.8	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	72.1	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	67.1	61.0	58.8
	観察・実験の技能	73.1	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	72.3	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市を6.4%、県を8.9%上回っている。</p> <p>○「光の性質」を問う問題では、市の平均正答率を7.2%上回っている。</p> <p>○実験の結果から考えられる「風のはたらき」について説明する問題で、市の平均正答率を11.7%上回っている。</p> <p>●「電気の通り道」を、ゴム手袋の役割から考えて説明する問題では、正答率が50%程度で、身近な事象と結び付けて考えることに課題が見られる。</p>	<p>・各単元を通して、学習内容を日常生活に結び付けながら学習を進めていくことを重視していく。</p> <p>・全体的に、基礎的な知識や技能は定着しているが、それらを応用して思考したり、現象を根拠付けて考え文章化したりすることに課題があることが分かる。そのため、実験結果から分かったことを自分の言葉で説明したり、現象について根拠をもとに文章化したりする機会を増やしていく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市を5.0%、県を6.3%上回っている。</p> <p>○「こん虫の育ち方」の設問での正答率は、市を12.6%、県を14.8%上回っている。また、「こん虫のからだのつくり」の設問では、正答率が80%以上であり、昆虫の学習に対する興味・関心が高い児童が多く、学習内容の定着が見られる。</p> <p>○日なたと日かげの地面の温度の変わり方をもとに、時刻を推測する問題では、正答率が80%以上であり、日光に関する知識の定着が見られる。</p> <p>●「太陽と地面のようす」の太陽とかげの動きを問う設問での正答率は30%程度であり、他の単元に比べると正答率が低く、課題が見られる。</p>	<p>・観察や実験の結果を正確に得るために、器具の正しい使い方の指導を徹底する。特に温度計の正しい使い方が定着できるように活用の幅を広げて指導する。</p> <p>・実験結果から思考したことを表現することに課題が見られるため、観察・実験を行うにあたり、科学的な見方・考え方を働かせられるよう日頃から科学的な事象に目を向けるよう指導する。</p>

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習についての質問では、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の肯定的な回答の割合がいずれも市の平均を上回っている。学習に興味関心、探求心を持って、粘り強く取り組んでいると言える。

○授業についての質問では、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」など話し合い活動の質問における肯定的な回答の割合がいずれも市の平均を上回っている。仲間とともに主体的に学び合うことで問題を解決している児童の姿が現れている。これは、学校課題として取り上げ研究していることであり、今後もさらに向上が図れるよう努めていきたい。

●家庭学習についての質問では、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的な回答の割合がいずれも市の平均を下回っている。自主学習の具体例や友達が取り組んだノートを紹介するなど、進め方をアドバイスしていきたい。

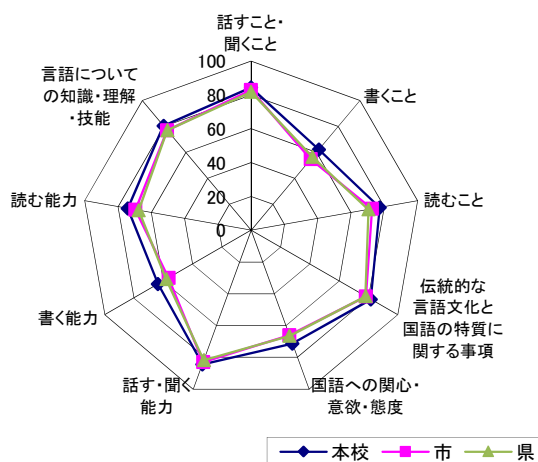
○学校生活についての質問では、「学校の決まりを守っている」「学校での役割や係の仕事にせきになんをもって取り組んでいる」の肯定的な回答はいずれも90%以上と高く、「学級活動の時間に、友だち同士で話し合っクラスのみまりなどを決められていると思う。」の肯定的な回答の割合も市の平均を上回っている。規範意識を持った生活を意識し、さらにお互いに生活しやすい環境を作っていこうとする意識が育ってきている。

○家庭生活についての質問では、「家の人と学校でのできごとについて話をしている」「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」の肯定的な回答の割合がいずれも市の平均を上回っている。家庭内で保護者の方々が児童に寄り添っていることのあらわれだと思われる。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	84.4	82.9	81.8
	書くこと	62.3	54.8	56.5
	読むこと	77.2	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.6	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	71.3	66.0	66.4
	話す・聞く能力	84.4	82.9	81.8
	書く能力	63.6	56.3	57.9
	読む能力	74.1	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	80.6	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

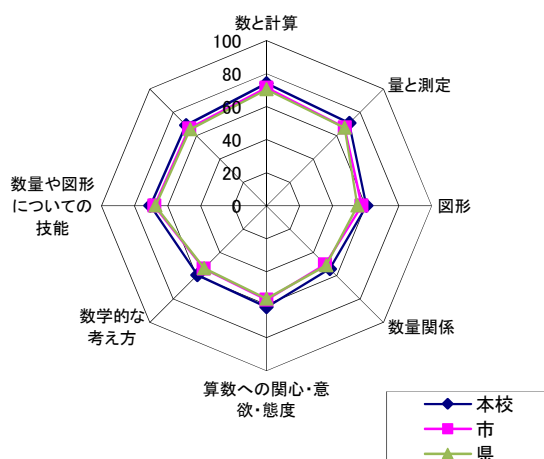
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市を1.5%上回り、県を2.6%上回っている。</p> <p>○話題の中心となっていることや話し方の工夫を聞き取ったり、司会者の役割を理解したりすることがよくできている。</p> <p>●話し合いの共通点を適切な言葉にして表現することに課題が見られる。</p>	<p>・読書や作文等を通して語彙を増やし、自分の考えを表現する際に適切に使っていくことができるような指導を行っていく。</p> <p>・話し合い活動で互いの意見を聞き合い、それをまとめるようなグループ活動も取り入れていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市を7.5%上回り、県を5.8%上回っている。</p> <p>○資料から文章の構成を理解して同型の文章を選んだり、設問に示された規定に従って文章を書いたりすることができる。</p> <p>●文章を要約したり、自分の考えを明確にして具体的に文章に表現したりすることに課題が見られる。</p>	<p>・各教科等の学習で、自分の考えや意見を書く活動を積極的に取り入れ、文章を書くことへの抵抗感を減らしていきけるようにする。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市を4.6%上回り、県を6.7%上回っている。</p> <p>○文章全体の内容を捉え、理解することができている。登場人物の気持ちを読み取ったり、説明文の内容を読み取ったりすることがよくできている。</p> <p>●登場人物の描写から心情を読み取ったり、段落の構成を内容から理解したりすることに課題が見られる。</p>	<p>・説明的な文章では、要点を捉えた上で段落相互の関連を考える活動を通して、段落構成を理解できるようにする。</p> <p>・文学的な文章では、心情の読み取りでその根拠となる部分を意識させるような指導を行っていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、市を3.2%上回り、県を3.5%上回っている。</p> <p>○漢字を読む力では高い正答率を示し、漢字辞典の使い方もよく理解している。</p> <p>●漢字を書く力がやや低い正答率であった。また修飾語などの文の構成の理解に課題が見られる。</p>	<p>・既習漢字の定着を図るため、文章を書く場面で既習漢字を積極的に使えるように指導していく。</p> <p>・文の構成については、授業の中で繰り返し指導し、様々な文章で構成を意識させることで、定着を図っていく。</p>

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.1	71.5	70.4
	量と測定	70.9	67.0	66.9
	図形	60.5	57.6	55.0
	数量関係	54.1	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	61.5	57.0	56.3
	数学的な考え方	59.3	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	70.4	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	69.0	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

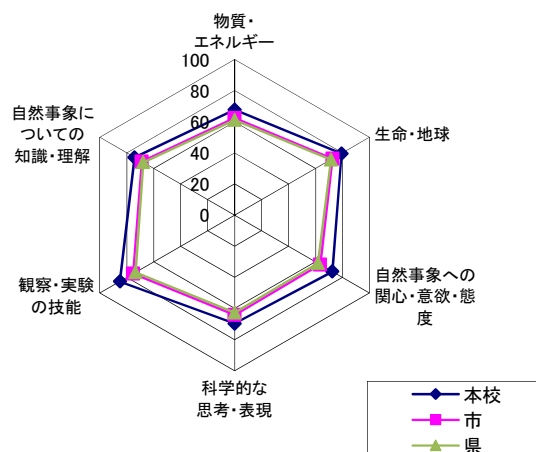
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市を2.6%、県を3.7%上回っている。</p> <p>○小数÷整数の設問では、県の平均を9.6%と大きく上回っている。また、小数のひき算についても平均を大きく上回っており、小数の計算の仕方がよく身に付いていることを示している。</p> <p>●小数を用いた重さの単位換算をする設問では、正答率が県の平均を5.4%下回っている。</p>	<p>・5年生の学習内容にも小数が多数扱われており、今後さらなる力を身に付けさせるためには、既習内容をよく確認した上で新しい内容に取り組みさせる授業を展開していく。</p> <p>・「1kg=1000g」など、単位の関係についてよく復習するとともに、日常生活の中で具体物を用いて単位のイメージをもたせるような指導を行う。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、市を3.9%、県を4.0%上回っている。</p> <p>○複合図形で面積の求め方や図から式を求める設問では、県の平均正答率を5.0%上回っており、面積の算出に関する理解ができています。</p> <p>●身近にあるもののおよその面積を求める設問では、誤答する児童が多く、正答率も39.7%と低い。見直しをもって概算することに課題が見られる。</p>	<p>・今後さらなる力を付けるために、類題を多く解いたり、多様な考えからよりよい考えに絞ったり、考えの共通点や相違点を話し合ったりする学習活動を行う。</p> <p>・量感を育てるためには、測定する前に大きさを見積もったり、様々な具体物の大きさを調べたり、確かめたりする作業的・体験的な算数的活動の場を設ける。</p>
図形	<p>平均正答率は、市を2.9%、県を5.5%上回っている。</p> <p>○ひし形の作図をする設問では、県の平均正答率を8.5%上回っている。</p> <p>●図から情報を読み取り、平行四辺形の特徴を使って説明する設問では、県の平均正答率を8.3%と大きく上回っているものの、設問自体の正答率は23.7%と非常に低い。</p>	<p>・それぞれの図形がもつ性質をもう一度よく確認し、その特徴を証明したり作図したりすることで知識の定着を図る。</p> <p>・他教科との関連を図り、問題の意図を正確に読み取ったり、順序立てた説明をしたりする学習を積み重ねていく。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、市を3.9%、県を3%上回っている。</p> <p>○分配法則とそれを表す式を選択する設問では、県の平均正答率を8.1%と大きく上回っている。</p> <p>●折れ線グラフと棒グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する設問では、誤答する児童が多く、無回答も見られた。</p>	<p>・数量関係に限らず、全体的に傾向を見ると記述で回答する問題で無回答の児童が多い。また、問題文を読み取る力にも課題が見られる。グラフに表された数量の関係を読み取ったり、それらを用いて自分の考えを友達と説明し合ったりする場面を意図的に設定していく。</p>

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	67.7	62.4	61.1
	生命・地球	79.3	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	72.4	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	69.5	64.1	62.6
	観察・実験の技能	85.1	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	74.3	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市を5.3%、県を6.6%上回っている。</p> <p>○「物の体積と温度」の設問では、どの問題も正答率が県の平均を上回り、空気や金属の膨張については校内正答率が90%を越えている。</p> <p>●「水のすがた」の水の状態変化についての理解を見る設問では、正答率が県の平均を8.5%下回り、正答よりも誤答する児童が多かった。</p>	<p>・実際に実験して得られた体験が、理解につながっている。今後も実体験を大切に授業展開を続けていく。</p> <p>・「水のすがた」に関する設問では、沸騰させて水が蒸発していく様子と自然に放置された水が蒸発していく様子を混同してイメージした回答が多かった。状況の比較と共に水が気体である状態を復習し、正しい理解につなげていく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市を6.8%、県を7.9%上回っている。</p> <p>○「天気の様子と気温」の気温を正しく計測する設問では、正答率が県の平均を13.0%と上回っており、器具の正しい使い方が身に付いていることを示している。</p> <p>○「月と星」の星の観察に関する設問では、正答率が県の平均を10%以上上回っており、特に星座早見を正しく使うことの設問には93.3%の児童が正答している。</p> <p>●「月と星」の示された方位から他の方位を推測することができるかを問う設問で、正答より誤答する児童が多かった。</p>	<p>・観察・実験の技能に高まりが見られる。これまで行ってきた、児童が能動的に学習し観察・実験に取り組むことができる授業展開を大切に、実感を伴った理解につながる観察・実験を続けていく。</p> <p>・身に着けた知識を新たな情報に照らし、関連付けながら思考したことを表現することに課題が見られる。観察・実験を行うに際し、予想や仮説を科学的な見方・考え方を働かせて表現できるよう、文章だけでなくモデル図や実演等の多様な表現方法を授業に取り入れ、推測する力の向上を目指す。</p>

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習についての質問では、ほとんどの項目で肯定的な回答が市の平均を上回っている。今後も、自主学習を工夫している取組を紹介するなどして、家庭学習への意欲をさらに高めていきたい。また、様々な場で家庭との連携を図り、家庭学習の充実を図っていきたい。

●読書についての質問では、平日の1日あたりの読書の時間が、「1時間以上、2時間未満」「2時間以上」と回答した児童の割合が市・県と比較して低くなっている。また、1か月に読む本の冊数については、「5～10さつ」「11さつ以上」と回答した児童の割合についても同様である。今後は、読書への関心・意欲を高めるための手立てを考えて実践していきたい。

○学習についての質問では、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強していて、不思議だな・なぜだろうと感ずることがある」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」という問いに対して、肯定的な回答の割合は市を上回っている。学習に対して興味・関心を持ち、意欲的に取り組んでいる様子が見られる。今後も学習意欲を持続できるように、授業展開や学習環境の設定を工夫していきたい。

○授業についての質問では、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」「授業を集中して受けている」「クラスは発言しやすい雰囲気である」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」などの問いに対する肯定的な回答の割合が、市を上回っている。このことから、児童が主体的に話し合い活動に取り組んでいることがわかる。今後も対話を取り入れた話し合い活動を展開し、自分の考えを深められるようにしていきたい。

○学校生活での質問では、「先生は学習のことについてほめてくれる」「自分はクラスの人の役に立っていると思う」などの質問に対して、肯定的な回答の割合が市を上回っている。教師にほめられたり、クラスの仲間に認められたりすることで、安心感や自信をもって学習に取り組んでいることが分かる。また、「学校のきまりを守っている」についての肯定的な回答の割合が96.9%であり、規範意識が高いことも分かる。

○情報についての質問では、「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」に対する肯定的な回答の割合は、市を5.9%上回っている。「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」に対する肯定的な回答の割合は、市をやや下回っている。また、「新聞を読んでいる」の問いに対して、「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」と答えた児童の割合が25.0%となっており、市を11.4%上回っている。このことから、新聞を読む習慣が身についている児童が多く見られる傾向にあり、新聞から情報を得ている児童が多いことが考えられる。

宇都宮市立豊郷中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の思いを豊かに表現し、主体的に学び合う児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自分の考えを臆せず表現し、積極的に話し合うことができるようになるため、朝の活動の時間に学級の実態に合わせた形態で話し合い活動を行い、話し合うスキルの向上を図っている。 発達段階に合わせて話し合いの型を作成し、それを活用した話し合いの指導をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えや意見を発表することは得意であると回答している児童が多い。 話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができるかと回答している児童が多い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを文章にして表現すること 根拠をもとに考え、文章にまとめること 	各教科における、まとめ・振り返りの充実	授業のまとめ・振り返りを、各学年の実態に応じた手立てを与えたり考えさせたりして、自分の言葉で文章を組み立て表現させる。これによって、まとめでは授業内容が根拠となったり、振り返りでは自分の考えを表現する場となり、文章で表現する力の向上を図りたい。